

世界があこがれる 観光都市へ

京都観光振興計画2020



京都市

世界があこがれる観光都市へ

京都市長 門川 大作



「5000万人観光都市」達成後の次なるステップとして、訪れる全ての人々に感動がある「5000万人感動都市」を目指してきた京都。今回は更に歩みを進めて、「感動」の先にある「世界があこがれる観光都市」へ！そんな強い決意を込めて、この度「京都観光振興計画2020」を策定しました。

近年、歴史、伝統、食、芸術、ものづくりや精神性など、多様な面で日本の文化に対する世界の関心が高まっています。こうした中、平成32年（2020年）のオリンピック・パラリンピックの東京開催が決まり、これから我が国は一層注目を浴びるものと存じます。そしてこれは、京都に伝わる日本文化を広く発信し、京都が「観光立国・日本」を力強くけん引する絶好の機会でもあります。

今回の大きなチャンスをしっかり捉えて、京都、ひいては我が国の発展の礎としていくためには、6年後に何をするのかではなく、この6年のうちに何をするのが極めて重要です。本計画は、スピード感を持って取組を進めていくため、従来の「未来・京都観光振興計画2010^{＋5}」の次の計画として半年前倒しで策定したものです。

オリンピック・パラリンピック招致プレゼンテーションを機に、「おもてなし」という言葉が一躍世界中に広まりました。「おもてなし」の核となるものは、周囲の人や物に対する思いやりの心です。その心を大切に多彩な文化を磨き上げ、千年を越えて我が国の都として多くのお客様をお迎えしてきた京都こそ、「おもてなし」の本場であると思います。そして、このような京都ならではの強みをいかしていくことが、多くの人々に「あこがれ」を持っていただけるまちづくりにつながっていくと確信しています。

観光政策は、あらゆる分野を横断する総合政策です。また、観光客の方々の心を惹き付け、快適にお過ごしいただけるまちは、市民の皆様にも「住んでいてよかった」と実感していただけるまちでもあります。役所内の縦割りを排し、同時に多くの市民、関係者の皆様と力を合わせて、訪れる人にも住む人にも高い満足届ける、魅力あふれるまちの実現に全力を尽くしてまいります。

結びに、「京都市観光振興審議会」の皆様をはじめ計画策定に携わっていただきました関係者の皆様、パブリック・コメントに貴重な御意見や御提案をお寄せくださいました市民の皆様、事業者・団体の皆様に、心から御礼を申し上げます。

目次

計画策定に当たって	2
第1章 京都にとっての観光とは	
1 観光に取り組む意義	3
2 観光を取り巻く情勢と課題	
(1) 国の動向	6
(2) 世界の観光の動向	7
(3) 訪日旅行の動向	8
(4) 国内旅行の動向	10
(5) 海外旅行の動向	11
3 京都観光の現状と課題	
(1) 京都市を訪れる観光客数	12
(2) 京都市を訪れる観光客の特徴	13
(3) 京都市への宿泊客	14
(4) 京都市内の宿泊施設	15
(5) 外国人観光客	16
(6) 観光消費額	18
(7) 京都観光の印象	19
4 これまでの取組と成果	21
第2章 京都観光振興計画2020	
1 計画概要	23
2 計画の位置付け	27
3 計画の4つの柱と施策	29
(1) 人づくり, まちづくり ～おもてなし・やすらぎ・しつらい～	31
(2) 魅力の向上, 誘致手法 ～きらめき・いざない～	39
(3) 魅力の発信, コミュニケーション ～ひびき・ひろがり～	49
(4) MICE戦略 ～つどい～	53
第3章 計画の推進	
1 進ちょく管理	55
2 計画推進体制	55
3 その他	56
京都観光振興計画2020の策定経過	57
京都市観光振興審議会 委員名簿	58
参考資料	
(1) 推進事業一覧	60
(2) 今回の計画策定に当たり実施した調査の概要	71

注 特に説明のない限り, 年度は(4月～3月) 年は暦年(1月～12月)を表します。
特に説明のない限り, 観光客数, 宿泊客数は実人数を表します。

計画策定に当たって

平成26年(2014年)7月,世界で最も影響力をもつ旅行雑誌のひとつ,「トラベル・アンド・レジャー」誌が行った読者投票「ワールドベストアワード2014」において,世界の人気都市を決める「ワールドベストシティ」ランキングで,京都市が1位に選ばれました。また,平成25年(2013年)の観光客数,外国人宿泊客数,観光消費額はこれまでの最高の数値を記録しています。

京都市では平成12年(2000年)に,「京都市観光客5000万人構想」を発表し,平成22年(2010年)に策定した「未来・京都観光振興計画2010⁺⁵」では,観光の「質の向上」を徹底し,市民,社寺関係者,文化関係者,観光関連業界,地元企業,大学・学生,観光客の皆様とともに,一丸となって取組を進めてきました。

先人たちが脈々と継承してきた,景観・伝統文化・伝統産業等を守り,育て,創造的な活用を進めてきたこと,市民ぐるみであたたかい「おもてなし」の心で皆様をお迎えしてきたこと,観光客の皆様のお声をきちんとお聴きし,不満を一つずつ丁寧に解消し,満足いただいた強みを徹底的に伸ばす,これらの着実な積み重ねがあったからこそ,上記の結果につなげることができました。

観光の取組は,観光客の皆様だけではなく市民の皆様にとっても,住んでいてよかったと実感できるまちづくりに直結するものです。観光政策は,産業,文化,環境,交通,都市整備,福祉,教育等あらゆる政策を横断する総合政策であり,都市の総合力が問われます。

平成32年(2020年)には,東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。さらに,平成31年(2019年)には,「ラグビーワールドカップ2019」,平成33年(2021年)には,「関西ワールドマスタースゲームズ2021」等の世界的なスポーツ大会の開催が予定されています。開催までの期間は,多くの広報媒体を通じて日本が紹介される機会が増えるとともに,日本への関心が高まる絶好の機会です。

日本の精神性を体現した上質な文化,奥深さなどを持つ京都の魅力を更に磨き,世界に向けて観せる,そして,市民ぐるみの取組をはじめとする徹底した安心・安全の確保,ユニバーサルツーリズムの推進,外国人観光客に対応する環境整備を重点的に進めるなど,京都ならではの地域力,人間力をいかして「誰もが安心安全に,笑顔で楽しく暮らし,観光できる,やさしさあふれるおもてなしのまちづくり」を進め,50年後,100年後も世界の京都として輝き続けるよう力強く取組を進めていきます。